



『熊本県へき地医療医師の会』 ～第1回地域研修会～が小国で行われました～



「熊本県へき地医療医師の会」という会があります。これは、平成25年4月に活動を開始した会で、上天草市・天草市・南小国町・小国町・山都町・湯前町・多良木町・水上村・あさぎり町の自治体の開設している病院に勤務する医師が中心となり、へき地に質の高い地域医療を提供することを目的に設立されました。

この会の事業の1つとして、年に一回、地域持ち回りで地域研修会を開催することになり、その記念すべき第1回が、平成29年11月25・26日に小国郷で開催されました。

当日は、小国公立病院に16名の医師と3名の医療事務員が集まり、地域の取組を紹介する3演題の講演と地域医療ワークショップが行われ、地域が孕んでいる問題点の打開策について、熱のこもったディスカッションが行われました。当院からは片岡副院長が小国の地域連携の現状について講演し、吉村医師がグループワークの発表を行いました。



その後、杖立に移動して懇親会が行われ、夜がふけるまで地域医療について、意見交換を行い、参加者にとって刺激の大きな大変良い会となりました。

翌日は、小国地域研修として、杖立、黒川、北里柴三郎記念館などを見学し、地域資源を利用した地域医療について考察を行いました。

志を同じくするへき地の医師が、知恵を出し合い、お互いに助け合うこの会は、熊本県の地域医療の質をよりよくするために、今後も活動を継続していきます。



あけまして
おめでとーございます



ゆたあ〜と

発行
小国公立病院
0967-46-3111
おぐに老人保健施設
0967-46-6111
訪問看護ステーション
0967-46-6050

第26号
平成30年1月4日

『オレンジプラン』ってご存じですか？

～認知症施策推進総合戦略について～

小国公立病院看護師 室原 理恵



認知症高齢者の将来推計は、「団塊の世代」が全員75歳以上となる2025年には高齢者の5人に1人が認知症に！と言われていています。認知症の人の意志が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができるよう、認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて、

熊本県では、認知症になっても病院で安心して適切なケアが受けられることができるよう、病院で働く医師や看護師をはじめとする医療従事者向けの認知症対応力向上研修を実施しています。

病院内研修で講師となるための研修を修了した医師を『くまもとオレンジドクター』、看護師を『くまもとオレンジナース』と呼びます。当院のくまもとオレンジドクターは坂本英世院長、くまもとオレンジナースは室原理恵です。

認知症疾患医療センターの指定状況としては、熊本大学病院が基幹型認知症疾患医療センターとして役割を担っています。阿蘇地域では当院の他に阿蘇やまなみ病院・阿蘇温泉病院にオレンジドクター・オレンジナースが各1名、阿蘇医療センターにオレンジドクターと認知症認定看護師が各1名在席しています。



- ① 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
- ② 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供
- ③ 若年性認知症施策の強化
- ④ 認知症の人の介護者への支援
- ⑤ 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
- ⑥ 認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進
- ⑦ 認知症の人やその家族の視点の重視

オレンジドクター・オレンジナースは2つ目の柱に属し、4つ目の柱である「認知症の人の介護への支援」の中に認知症の人の介護者の負担軽減・認知症カフェ等の設置とあり、当院に隣接して「ひとよこい」が設置されています。どなたでも参加できますので、お茶飲みながら足を運んで頂けたら幸いです。

現在、オレンジナースとしての働きは、院内での研修実施、及び阿蘇地域の認知症認定看護師・オレンジナースと共に研修を実施するに留まっています。今後は「ひとよこい」にお邪魔をさせてもらいながら、地域の皆さんからのお声をお聞かせ頂けると嬉しいです。

次号、オレンジナースの役割についてご説明いたします。



おぐくに老健だより

〜園芸活動で楽しくリハビリ〜

おぐくに老人保健施設 作業療法士 穴井 憲一

先日、数名の利用者の方と一緒にパンジーの花とチューリップの球根を植えました。

皆さん「私は花が好き」「元気な頃は、よく花を植えていた」などと話しをしながら、一緒に楽しそうな表情で、熱心に花を植えられたのが、とても印象的でした。



老健のリハビリでは、機能訓練だけでなく、楽しくリハビリをすることを目的に調理や園芸などの馴染みの活動を取り入れています。



特に園芸活動は、草花や土をいじる作業を通して、身体を動かすリハビリになったり、植物を育てる喜びを感じ、心を穏やかにするなど、様々な効果があります。

皆さん、植え終わると「今度は、いつ植える?」「久しぶり花を植えて楽しかった!」など達成感のある言葉が返ってきます。



「心が動けば、身体も動く」とあります。好きなことをすると心がワクワクして、気づいたら身体を動かしています。園芸活動にもそんな魅力があると思います。

これからも園芸活動を通して、利用者の皆さんが元気に過ごしていただくお手伝いが出来たらと思っています。さて、今度はどんな花を植えようかな・・・?



〜支援医師紹介〜



みやした ゆうすけ
宮下 雄輔 先生
診察日:小児科 毎週金曜日

熊本大学医学部附属病院小児科よりお邪魔しております。宮下雄輔と申します。出身は熊本で、現在、小国に常勤医がおらず、皆様には大変ご迷惑をおかけしております。私は主に奇数週の金曜日に、外来を担当しておりますので、小児のことでありましたら、遠慮なく聞いて頂いても構いません。一生懸命、小国の子ども達のために頑張りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

優秀賞を頂きました

外来准看護師 井手口 武司



第21回熊本県国保地域医療学会で「観光バス事故による傷病者(韓国人)受け入れ時の対応を振り返って」を外来の代表として発表し、優秀賞に選ばれ、昨年10月28日に表彰式がありました。

平成27年に韓国人観光客のバス事故で多人数の負傷者が小国公立病院へ搬送された事案を題にした発表でした。外来全員でこのバス事故を振り返り、評価、改善し研究発表を行いました。この改善点が熊本地震の際にも大変活用できています。今回の経験を活かし、質の高い看護に努めていきたいと思っております。



職員川柳

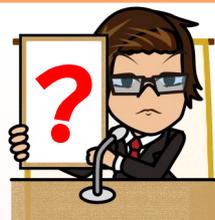
詠み人 岩ちゃん

改元も のちの願いは

平成の世

リモコンで 心のチャンネル

変えられませぬ



次回 平成30年3月1日 発行予定です。お楽しみに!!